

科目名	教育実践論		
担当教員名	向後 朋美、安達 一寿		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-教職課程・司書教諭課程科目		
学 年		ク ラ ス	
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	養護教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

この科目は養護教諭一種免許状取得のための選択科目です。養護または教職に関する科目の1つで、「介護等体験」実習とその事前事後指導を含みます。

「介護等体験」の対象となる社会福祉サービスを利用している方々や社会福祉施設及び機関に対する基本的認識を得ます。

- 。(i)介護等体験の事前指導をとおして、社会福祉教育の概要をまなび、そこで必要とされる基本的な技術を体得します
- 。(ii)配属先の実習施設での実習をとおして、社会福祉従事者の基本姿勢を学びます。(iii)事後指導をとおして、体験した内容の振り返りを行い、基本的な認識を醸成します。

内容

1.事前指導

- (1) 社会福祉教育について
- (2) 対人援助について
- (3) 介護等体験の目的について
- (4) 介護等体験における心構え
- (5) 自己目標をたてる
- (6) 社会福祉施設と福祉サービスについて
- (7) 特殊教育と障害児者について
- (8) 配属先施設についての自己学習
- (9) 社会福祉施設の専門職について
- (10) 社会福祉従事者の基本姿勢
- (11) コミュニケーション理解
- (12) 車椅子、食事介助、移乗等体験

2.介護等体験

3.事後指導

- (1) 介護等体験における個別振り返り
- (2) 介護等体験におけるグループによる振り返り

評価

下記の割合で点数化し、60%以上の得点を合格とする。

- (1) 授業への参加度 50%
- (3) 介護等体験施設の「記録ノート」等の資料に基づく評価： 50%

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業内で介護等体験の手引きを配布します。

科目名	学校経営と学校図書館		
担当教員名	今井 福司		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-教職課程・司書教諭課程科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	図書館司書/司書教諭		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

- (1) 本科目は司書教諭課程科目の必修科目として設定されている。
- (2) 学校図書館法によれば、学校図書館は学校教育を支える基盤とされている。本科目では司書教諭を目指す受講者のために、学校教育や学校図書館に関わる基本的な知識やその背景について、講義や実践例を教員が提示しながら学ばせる。その上で知識や背景を前提としながら、学校図書館の経営について受講者各自がアイデアを提示できる場面も設けたい。
- (3) 本科目の目標としては以下の項目を提示する。
- ・単に知識を丸暗記するのではなく「構造」「固有名詞」「数字」に着目して学ぶこと。
 - ・覚えた知識を“第三者に説明すること”を意識して学ぶこと(その知識には何が前提とされていて何を話さなくてはいけないのか)。
 - ・学んだ知識を使って、どんな実践が可能なのかを意識して授業に臨むこと。
- 1点目および2点目の目標を達成するために、授業では頻繁に発言を促すので予め留意しておいてほしい(様々なレベルの質問をするので、正解不正解を気にせずに発言すること)。3点目の目標を達成するために、本科目では講義だけではなく実習を取り入れる。特に後半では任意のテーマを設定してグループ作業を行ってもらおう。
- なお授業進行の都合上初回到座席を指定するので、特に初回の遅刻・欠席はしないこと。加えて集中講義であるので、遅刻・欠席・早退は特段の理由がない限り行わないこと。

内容

授業は基本として以下の構成で進行するが、受講者の反応や希望、展開状況に応じて変更することがある。

(第一ブロック：学校図書館を取り巻く制度)

1. イントロダクション、学校図書館の現状の確認
2. アメリカ・日本における学校図書館の歴史とその理念・意義
3. 学校図書館関係法規と位置づけ
4. 学習指導要領と学校図書館

(第二ブロック：学校教育の中での学校図書館の機能)

5. 学校図書館の整備I メディアの選択と組織化
6. 学校図書館の活動I 読書センターとしての活動
7. 学校図書館の活動II 学習・情報センターとしての活動
8. 学校図書館職員の位置づけ、司書教諭の任務と役割
9. 学校図書館の経営(学校経営計画の立案、学校教育計画での位置づけ)

(第三ブロック：学校図書館実践の提案と評価)

10. 学校図書館の整備II 環境整備(施設・設備)
11. 学校図書館の評価と改善
12. グループ作業(作業内容については、授業中発表する。)
13. グループ作業発表会

(第四ブロック：学校図書館の展望)

14. 情報化社会，生涯学習時代における学校図書館の位置づけ

15. まとめ

評価

授業点を50点（授業参加の度合い，小課題の提出状況から総合的に判断する），最終試験を50点と設定し，60点以上を得た者を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

・古賀節子編 『学校経営と学校図書館』 司書教諭テキストシリーズ 第1巻 樹村房 2002

【推薦書】

・坂田仰，河内祥子，黒川雅子編著 『学校図書館の光と影』 八千代出版 2007

・渡辺信一先生古希記念論文集編集委員会 『生涯学習時代における学校図書館パワー』 日本図書館協会 2005

科目名	学校図書館メディアの構成		
担当教員名	近藤 秀二		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-教職課程・司書教諭課程科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	図書館司書 / 司書教諭		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

学校図書館は、生徒自身が学校図書館にある各種のメディアを有効に活用して、自ら学んでいく学習力の養成を図っていく場所である。現在の情報化社会において、「読書センター」の機能を持ちながら、「学習・情報センター」としても機能していかなければならない。

司書教諭は、今日の学習環境の変化に伴い、学校図書館で取り扱う資料「図書」や「逐次刊行物等」の紙媒体の資料だけでなく、「視聴覚資料」、「インターネット等の電子資料」や「電子書籍」などの種類とその特性を理解して、生徒にとって必要な資料を選択、収集して組織化していく必要がある。

司書教諭としての実務能力を持てるように、講義だけでなく演習も加えながら、学習していく。また、実際に学校図書館でどのような運用が行われているかも具体例を含めて説明していく。「学校図書館メディアの構成」は、学校図書館司書教諭5科目の一つである。

内容

- 1 授業の進め方と目標(ガイダンス)
- 2 学校図書館を取り巻く環境と現状
- 3 学校図書館の運用(事例)
- 4 学校図書館での取り組み
- 5 学校図書館の役割
- 6 学校図書館メディアの役割・種類と特徴
- 7 学校図書館メディアの選択のための情報源
- 8 学校図書館メディアの収集方針
- 9 学校図書館メディアの廃棄
- 10 学校図書館メディアの組織化
- 11 学校図書館メディアの配列(分類)と配架
- 12 学校図書館メディアの組織化(目録と分類演習)
- 13 学校図書館メディアにおけるコンピュータの活用
- 14 学校図書館メディアにおける著作権法
- 15 まとめ

評価

評価の前提として2 / 3以上の出席をすること(やむを得ない欠席の場合は必ず相談すること)。成績の評価は、通常の授業態度および授業中に提出する課題や小テスト(35点)、レポートおよび演習に対する課題による評価(35点)、試験(30点)の結果で総合的に評価する。総合60点以上で合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】 特になし(必要に応じ適宜プリント等配付します)

【参考図書】志村尚夫編著 『学校図書館メディアの構成とその組織化 改訂版』 青弓社 2009 ほか、授業でその都度挙げて説明していく。

科目名	学習指導と学校図書館		
担当教員名	紺野 順子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-教職課程・司書教諭課程科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	図書館司書 / 司書教諭		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格と概要

学校図書館は児童生徒の日々の学習活動、および教員の教育活動を支援し推進するという重要な任務を持っている。学校図書館の積極的・効果的な利用を図る上で、児童生徒に対し、図書館および各種メディアを活用し、自主的な学習能力・態度を育成するための指導が必要である。そのための指導原理と方法を具体的・実践的に体得し、あわせて教員に対する支援と協力についての理解を深める。学習情報センターとしての学校図書館機能を発揮する上で、司書教諭5科目のうち最も中核的な科目である。

学修目標

- 1) 学習活動における学校図書館の役割と機能を理解する。
- 2) 学校図書館の各種メディアの特性と活用方法を体得する。
- 3) 指導内容の具体的な理解を図る。
- 4) 児童生徒の発達段階に応じた指導計画とその展開方法を理解する。
- 5) 教員の教育活動への支援方法を考える。

内容

1	教育課程の展開と学校図書館の役割
2	主体的学習とメディア活用能力
3	メディア活用能力育成指導の内容と指導計画
4	指導内容の具体的検討(図書館での課題調査)
5	指導内容の具体的検討(課題調査の発表)
6	指導内容の調査結果の発表・討議
7	指導計画作成のための原理
8	指導内容の体系化(グループ討議)
9	指導内容の体系化(グループ討議結果の発表)
10	メディア活用能力育成指導の年間計画作成
11	メディア活用能力育成指導の方法
12	特定学年の単位時間内での指導案作成
13	集団指導・個別指導の意義とその展開
14	メディア活用能力育成と情報サービス
15	教員に対する支援と働きかけ

評価

課題についての調査および発表30%、メディア活用能力育成指導のための指導案作成40%、理解度確認のための論述レポート30%

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業時に必要に応じて資料・プリントを配布する。

科目名	読書と豊かな人間性		
担当教員名	皆川 美恵子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-教職課程・司書教諭課程科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	図書館司書 / 司書教諭		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

学校図書館司書教諭資格を取得したい学生に向けての必修科目である。

学校図書館においては、近年、活字離れ、読書離れが進んでいる児童・生徒の「読書」を支援することが強く求められている。読書は、言葉を学び、感情を磨き、表現力を高め、人生を深く豊かに生きていく上で、欠くことのできないものである。具体的に、どのように子どもたちの読書を支援していくかについて講義をしていく。

内容

- 第1回 子どもの読書についての考え方
- 第2回 読書と人間形成
- 第3回 小学校低学年の子どもの読書
- 第4回 小学校中学年の子どもの読書
- 第5回 小学校高学年の子どもの読書
- 第6回 中学生と読書
- 第7回 高校生と読書
- 第8回 読書資料の種類と活用
- 第9回 絵本
- 第10回 伝承文学(昔話、伝説など)
- 第11回 ファンタジー
- 第12回 リアリズム、ノンフィクション
- 第13回 読書体験のひろがり
- 第14回 学校図書館での読書環境の整備
- 第15回 家庭、公共図書館、地域関連機関との連携・協力

評価

授業のなかでの討議や実演など30パーセント、レポート内容など70パーセントで評価する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書

赤星隆子編著『読書と豊かな人間性』樹村房

科目名	情報メディアの活用		
担当教員名	井口 磯夫		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-教職課程・司書教諭課程科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	図書館司書 / 司書教諭		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

本科目は、司書教諭資格を得るために必要な科目である。

これからの学校図書館は、生徒の学習を支援する学習センターの機能と、生徒の情報リテラシーの育成を支援する機能が一層重要となる。そのために、従来の各種メディアや情報ソフトの整備の他に、マルチメディアに対応した情報機器やインターネット接続など、学校図書館の情報化に対する対応が求められている。このような学校図書館を経営し、生徒や教職員の情報活用能力を育成できる司書教諭になるために学習することをねらいとする。

内容

1	学校図書館の情報化の施策の流れ
2	メディア専門職としての司書教諭
3	高度情報通信社会と学校図書館
4	情報メディアの発達(演習)
5	情報メディアの特性と選択(実習)
6	視聴覚メディアの活用
7	教育用コンテンツの活用(演習)
8	データベースと情報検索(実習)
9	インターネットによる情報活用(演習)
10	インターネットによる情報発信(実習)
11	学校における情報共有
12	インターネット利用の光と影
13	著作権とメディア
14	演習・実習
15	まとめ

評価

授業内に課する演習(4課題を40%評価)と実習(4課題を50%評価)を評価し、授業への参加度(10%)を合わせて総合的に評価し、60%以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】井口磯夫編著 『情報メディアの活用』 樹村房

【参考図書】アメリカ公教育ネットワーク・ALA、足立正治・中村百合子監訳

『インフォメーション・パワーが教育を変える』 高陵社

堀田龍也著 『メディアとのつきあい方学習』 ジャストシステム

越智貢・土屋俊・水谷雅彦編 『情報倫理学』 ナカニシヤ出版

田屋裕之著 『電子メディアと図書館』 勁草書房

科目名	養護教諭実践論		
担当教員名	松野 智子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-教職課程・司書教諭課程科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

子どもたちの心身の健康問題等のとらえ方や解決策について、これまで学んだ科目「学校保健」、「養護概説」、「健康相談活動の理論及び方法」を基礎にしながら、日常等の実務に必要な具体的な方法について、主に演習により学ぶものである。

特に、学校教育法や学校保健安全法等に基づいた方法及び技術的基準、事後処理等に関する事項の具体的な方法等について演習を通じた体験学習で、養護教諭としての資質を担保するものである。

学修目標は、学校保健安全法及び通達等による方法等の遵守、各種関係計画等の立案に係る諸事項の理解 養護実習時の活用

内容

- (1)学校保健計画の根拠とその留意点について
- (2)学校保健計画及び評価計画の実際
- (3)定期健康診断実施計画立案時の留意点とその実際
- (4)定期健康診断実施方法及び技術的基準とその実際(1) (身長・座高・体重測定方法、視力・聴力・色覚検査方法)
- (5)定期健康診断実施方法及び技術的基準とその実際(2) (内科・眼科・耳鼻咽喉検診、尿検査、心臓検診)
- (6)定期健康診断実施方法及び技術的基準とその実際(3) (問診票及び各種検診事前調査について)
- (7)定期健康診断事後処理の実際
- (8)健康観察の留意点とその実際
- (9)保健室経営計画立案時の留意点について
- (10)保健室経営計画立案の実際
- (11)学校環境衛生検査の実際と学校薬剤師との連携について
- (12)学校医、学校歯科医、検査機関との連携について
- (13)「保健だより」作成の留意点について
- (14)「保健だより」作成の実際
- (15)まとめ

評価

各回による課題のレポート及び資料作成 4 割、筆記試験 5 割、通常の授業態度 1 割 60 点以上合格とする。
合格点に満たなかった場合は「再試験」を実施する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【テキスト(教科書)】采女智津江他「新養護概説」少年写真新聞社

科目名	基礎栄養学		
担当教員名	井上 久美子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-教職課程・司書教諭課程科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

この科目は、養護教諭一種免許を取得するための必修講義科目となります。より健康な心身を獲得するために必要な、栄養学の基礎を学んでいきます。

この講義ではまず、三大栄養素(糖質、タンパク質、脂質) 微量栄養素(ビタミン、ミネラル) その他の栄養成分(水分や食物繊維など)について、その構造と消化・吸収・代謝システム、体内での機能、さらに、どのような食品に多く含まれどのように摂取することが好ましいかについて、理解を導いていきます。また、栄養素の摂取量と消費量のバランス、体内での過剰状態や不足状態についても説明を加えます。

学修目標は、食品と身体の双方に存在する栄養素の性質や機能に関する基礎知識を得ることができる 健康な身体づくりのための、効率的な栄養素の摂取法を理解することができる 栄養素の摂取と消費のバランスが心身の健康・栄養状態に与える影響について健康教育できる基盤をつくる の3点とします。

内容

1	栄養と健康
2	栄養素の消化・吸収・代謝
3	糖質とは何か
4	糖質の機能と効率的な摂取法
5	タンパク質とは何か
6	タンパク質の機能と効率的な摂取法
7	脂質とは何か
8	脂質の機能と効率的な摂取法
9	ビタミンの必要性
10	ミネラルの必要性
11	水分・食物繊維の必要性
12	栄養素の摂取量と消費量のバランス
13	日本人の食事摂取基準と食事バランスガイド
14	幼児期・学童期・思春期の栄養学
15	まとめ

評価

学則にしたがって三分の二以上出席していることで評価を受けることができます。レポート30点、ミニテスト20点、ペーパーテスト50点とし、トータル60点以上を合格とします。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】吉田 勉 編 [わかりやすい栄養学] 三共出版

【推薦書】林寛 著 〔栄養学総論〕 三共出版

池本真二、稲山貴代 編著 〔食事と健康の科学〕 建帛社

科目名	食品学		
担当教員名	増沢 光信		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-教職課程・司書教諭課程科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格：この科目は、教職課程必須科目で、司書教諭免許を取得する上で必要な科目である。食品学総論の基幹部分である食品成分表並びにそこに取り上げられている各食品成分について学修し、食品とは何かの概要を理解する。

科目の概要：食品と栄養、食品の機能及び分類など食品の基礎的なことを先ず説明する。そして食品の栄養素、特に基本となる水分、タンパク質、脂質、炭水化物、ミネラル、ビタミンについて要点を整理して説明し、併せて食品の消化吸収及び日本食品標準成分表の読み方などについて説明する。さらに、食品の新しい機能について解説し、保健機能食品についても説明する。

学修目標：基本的には教科書に沿って説明するが、教科書を離れて関連情報を補足的に説明する。その時には別途「授業の要点」を配布する。化学の専門知識を必要としない範囲での平易な内容説明とする。

内容

1	食品とは何か、食品と栄養、食品の機能について
2	食の歴史の変遷、食物連鎖、食生活と健康、食嗜好の形成、食糧と環境について
3	食品の安全安心の確保とその具体的取り組みについて
4	食品の第三次機能と機能性食品
5	特定保健用食品、特別用途食品、栄養機能食品と保健機能食品制度について
6	食品成分、食品の分類及び日本食品標準成分表について
7	食品中の水の状態と役割について
8	食品成分の基本的性質 1 タンパク質について
9	食品成分の基本的性質 2 脂質について
10	食品成分の基本的性質 3 炭水化物について
11	食品成分の基本的性質 4 灰分と無機質について
12	食品成分の基本的性質 5 ビタミンについて
13	食品の消化吸収とエネルギーについて
14	食品の表示と食品に関する法律について
15	まとめ

評価

ペーパーテスト(70%)及び平常点(30%)により60点以上を合格点として評価する。合格点に満たない場合は再試験をおこなう。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書：青柳靖夫、筒井知己著「標準食品学総論」医師薬出版

科目名	食機能論		
担当教員名	井手 隆		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-教職課程・司書教諭課程科目		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格：食品の持つ重要な特性として、生体の代謝、免疫系、内分泌系等を制御することにより健康の維持・増進と疾病の予防・治療に資する三次機能（生体調節機能）がある。本講義ではこの食品の三次機能に関して述べる。最新の知見を紹介するもので、理解には食品学・食品化学の講義で習得した食品の特性に関する知識とともに、栄養学、栄養化学、人間生物化学、分子栄養学等の科目で習得した基本的知識が幅広く要求される。

科目の概要：食品の持つ抗酸化機能、消化吸收促進機能、代謝改善機能、吸収阻害機能、微生物活性化機能、脂質代謝改善機能等について基本的メカニズム、食品成分の作用点、機能を活用した食品の実例などについて解説する。

学習目標：

- 1.健康維持・疾病予防と関連する生体の代謝機構等について基本的なことから学び理解する
- 2.食品中の機能成分がどのようなメカニズムで生体調節機能を発揮するかを学び理解する
- 3.三次機能を活用した食品について学ぶ
- 4.健康の維持・疾病の予防に有効な食生活について学び理解する

内容

1	食品の機能とは
2	機能性食品の現状（栄養機能食品、特定保健用食品）
3	抗酸化機能（活性酸素の生成と生体への影響）
4	抗酸化機能（抗酸化物質）
5	抗酸化機能（抗酸化機能食品）
6	消化吸收促進と代謝改善機能（消化吸収のメカニズム）
7	消化吸收促進と代謝改善機能（ミネラル吸収のメカニズムと吸収促進物質）
8	消化吸收促進と代謝改善機能（ビタミン吸収のメカニズム）
9	難消化、吸収阻害および微生物活性化機能（食物繊維）
10	難消化、吸収阻害および微生物活性化機能（糖アルコール、オリゴ糖）
11	難消化、吸収阻害および微生物活性化機能（プレバイオティクスとプロバイオティクス）
12	脂質代謝改善機能（脂質代謝とその制御メカニズム）
13	脂質代謝改善機能（多価不飽和脂肪酸、大豆タンパク質、リン脂質）
14	脂質代謝改善機能（ジアシルグリセロール、共役リノール酸、フラボノイド、リグナン）
15	まとめ

評価

レポート30%、期末テスト70%により評価し、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】青柳康夫編著、有田政信、太田英明、大野信子、藺田勝、辻英明共著 『改訂食品機能学』建帛社

【推薦書】寺尾純二、山西倫太郎、高村任知共著 『食品機能学』光生館

科目名	食薬理学		
担当教員名	梅垣 敬三、小島 彩子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-教職課程・司書教諭課程科目		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

食品成分も医薬品と同様に一つの化学物質としてとらえ、それら物質の人体に対する作用を薬理学的な観点から理解するための基礎知識を習得する。その基礎知識を踏まえて、食品と医薬品の違い、相互作用、安全性・有効性の評価に関する事項を理解し、氾濫する食品情報に適切に対応でき、さらに傷病者の栄養管理にも対応できる知識を習得する。

内容

総論

1. 食品と医薬品の特性と区分
2. 薬理作用と作用機序
3. 食品成分および医薬品の体内動態 -1 吸収
4. 食品成分および医薬品の体内動態 -2 分布
5. 食品成分および医薬品の体内動態 -3 代謝
6. 食品成分および医薬品の体内動態 -4 排泄
7. 食品成分および医薬品の体内動態に影響を与える因子
8. 食品-医薬品相互作用 -1 薬理学的相互作用の事例
9. 食品-医薬品相互作用 -2 薬物動態学的相互作用の事例
10. 食品と医薬品の安全性・有効性評価
11. いわゆる健康食品をとりまく現状と保健機能食品制度

各論

12. 高血圧治療薬と関連する特定保健用食品
13. 脂質異常症治療薬と関連する特定保健用食品
14. 糖尿病及び骨粗鬆症の治療薬と関連する特定保健用食品
15. まとめ

評価

ペーパーテストを実施して60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合は再試験を実施する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】安原一・小口勝司編 『わかりやすい薬理学』 ヌ-ヴェルヒロカワ

【推薦書】渡辺他編著 『クスリのがわかる本』 地人書館 499.1/K

独立行政法人国立健康・栄養研究所監修 『健康・栄養食品アドバイザーースタッフ・テキストブック』 第一出版

田中正敏著 『薬はなぜ効くか』 講談社 491.5/T

科目名	児童生徒の精神保健		
担当教員名	鷓木 恵子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-教職課程・司書教諭課程科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

養護教諭一種免許状取得のための科目である。「精神保健」の科目区分にあり、「精神保健概論」との関連が強い。

科目の概要

児童生徒を対象とした精神保健を考える際に、発達上の変化を加味した理解が必要である。成人以上に診断や評価が難しいが、早期のサインを見逃さずに適切に対処することで、重症化することなく、また二次障害を生じることなく、本人の潜在的な可能性を十分に伸ばすことが可能である。養護教諭としての関わりといった視点から事例を交えて学ぶ。

学修目標

- ・ 児童期・青年期に生じる代表的な発達障害・精神障害について学ぶ。
- ・ 養護教諭としての関わり方を理解する。

内容

1	児童生徒の精神保健の現在
2	注意欠陥多動性障害とは
3	注意欠陥多動性障害への対応
4	学習障害とは
5	学習障害への対応
6	アスペルガー障害とは
7	アスペルガー障害への対応
8	中間試験
9	摂食障害とは
10	摂食障害への対応
11	児童虐待とは
12	児童虐待への対応
13	薬物依存とその対応
14	まとめ
15	今後の課題

評価

中間試験(50点)と期末試験(50点)を総合的に評価し、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書は特に定めない。推薦書は適宜授業中に紹介する。

科目名	教職入門		
担当教員名	橋本 克己		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-教職課程・司書教諭課程科目		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状 / 栄養教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状 (福祉)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

1 科目の性格

本科目は教育職員免許法に定める、中学校2種免許取得に必要な「教職に関する科目」のうち、「教職の意義等に関する科目」(2単位)に対応するものである。(教職必修科目)

2 科目の概要

本科目の概要は、主に以下の3点である。 教職の意義と、教員の役割についての根本原理を学ぶ。

教員の職務内容(サービス・研修など)について学ぶ。 教員採用のあり方などを知る。

3 学修目標

本科目の学修目標は、以下の3点である。 教職の制度的側面についての基礎知識を習得する。 教職にの意義と教員の役割について理解を深める。 教職への意欲を高める。

内容

- 第1回： 学校をめぐる、現代の諸問題
- 第2回： 現代社会の教育課題と学校(1) 義務教育課程における課題
- 第3回： 現代社会の教育課題と学校(2) 後期中等教育における課題
- 第4回： 専門職としての教師・その法的位置づけ
- 第5回： 教師像の歴史的变化
- 第6回： 教員生活の実際
- 第7回： 教師の職業的社会化と研修の意義
- 第8回： 研修制度の実際
- 第9回： 学習指導要領の法的意義
- 第10回： 学校教育と法体系
- 第11回： 教員のサービス
- 第12回： 学校・家庭・地域社会の連携と教員の役割
- 第13回： 教員生活を振り返って・授業担当者による教員生活体験談
- 第14回： 学校教員の採用システムとその対応
- 第15回： まとめ

評価

毎回授業時の小テストと筆記試験により評価する。小テスト50：期末試験50の比率で評価(100点満点)し、合計60点以上を単位認定する。合格点に満たなかった場合には「再試験」を行う。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【テキスト】 テキストは、「図説・表解 教育法規」 坂田仰ほか著 教育開発研究所、を用いる予定である。変更の場合もあるので、初回の授業で指示する。

【参考図書】 参考書・参考資料等として、教育法規に関しては「学校小六法」が、採用情報に関しては都道府県教育委員会の広報が役立つ。

科目名	教職入門		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-教職課程・司書教諭課程科目		
学 年		ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	養護教諭一種免許状 / 栄養教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状（福祉）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

1 科目の性格

本科目は教育職員免許法に定める、中学校2種免許取得に必要な「教職に関する科目」のうち、「教職の意義等に関する科目」（2単位）に対応するものである。（教職必修科目）

2 科目の概要

本科目の概要は、主に以下の3点である。 教職の意義と、教員の役割についての根本原理を学ぶ。

教員の職務内容（サービス・研修など）について学ぶ。 教員採用のあり方などを知る。

3 学修目標

本科目の学修目標は、以下の3点である。 教職の制度的側面についての基礎知識を習得する。 教職にの意義と教員の役割について理解を深める。 教職への意欲を高める。

内容

- 第1回： 学校をめぐる、現代の諸問題
- 第2回： 現代社会の教育課題と学校（1） 義務教育課程における課題
- 第3回： 現代社会の教育課題と学校（2） 後期中等教育における課題
- 第4回： 専門職としての教師・その法的位置づけ
- 第5回： 教師像の歴史的变化
- 第6回： 教員生活の実際
- 第7回： 教師の職業的社会的化と研修の意義
- 第8回： 研修制度の実際
- 第9回： 学習指導要領の法的意義
- 第10回： 学校教育と法体系
- 第11回： 教員のサービス
- 第12回： 学校・家庭・地域社会の連携と教員の役割
- 第13回： 教員生活を振り返って・授業担当者による教員生活体験談
- 第14回： 学校教員の採用システムとその対応
- 第15回： まとめ

評価

毎回授業時の小テストと筆記試験により評価する。小テスト50：期末試験50の比率で評価（100点満点）し、合計60点以上を単位認定する。合格点に満たなかった場合には「再試験」を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【テキスト】 テキストは、「図説・表解 教育法規」 坂田仰ほか著 教育開発研究所、を用いる予定である。変更の場合もあるので、初回の授業で指示する。

【参考図書】 参考書・参考資料等として、教育法規に関しては「学校小六法」が、採用情報に関しては都道府県教育委員会の広報が役立つ。

科目名	教育基礎論		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-教職課程・司書教諭課程科目		
学 年		ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	養護教諭一種免許状 / 栄養教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状（福祉）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

人間生活学部教職科目 必修科目。

教職課程の基礎科目として各教科の基本となる教育の基本理念、教育の歴史や思想について学習する。また、今日の教育の動き、教育改革の進行など、現代社会の動きと日本、諸外国の状況など、教育現象を広くとらえ、人間形成のあり方にも触れる。

教育についての視野を広げ、自身の教育観の形成に役立てることを学修目標とする。

内容

1	現代教育の諸課題
2	教育とは - 教育へのさまざまな問い
3	教育と社会変容 - 教育の機能・役割
4	子どもの生活環境の変化
5	教育改革の動向
6	公教育の成り立ち
7	課題発表
8	教育制度と学校体系 - 諸外国と日本
9	学力について - 新学力観とPISA
10	子ども観の誕生 - ルソーにおける〈子どもの発見〉
11	近代学校の誕生 - 西洋と日本
12	学校観の移り変わり - デューイにみる学校と社会
13	現代にみる学校化社会と新たな学習への模索
14	課題発表
15	まとめ

評価

課題レポート60点、授業・グループワーク参加30点、発表10点の合計100点とし、60点以上が合格。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

『やさしい教育原理』（有斐閣）

『学ぶこと・教えること』（金子出版）などが参考。

テキストは授業時に紹介する。

科目名	教育基礎論		
担当教員名	橋本 克己		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-教職課程・司書教諭課程科目		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状 / 栄養教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状 (福祉)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

1 科目の性格

本科目は、教育職員免許法に定める、中学校2種免許取得に必要な「教職に関する科目」のうち、「教育の基礎理論に関する科目」(4単位中の2単位)に対応するものである。(教職必修科目)

2 科目の概要

本科目の概要は、(1)教育の理念ならびに教育に関する歴史・思想について学ぶ、(2)教育に関する制度、社会との関わり、学校経営の基本について学ぶことにある。

3 学修評価

本科目の学修目標は、以下の2点である。教育の歴史的な展開と教育に関する様々な知識を理解し習得する。教育について多角的視点から根源的に考えることができるようになる。

内容

- 第1回： 教育の概念をめぐって
- 第2回： 社会生活と教育
- 第3回： 古代・中世の教育と近代学校の成立
- 第4回： 「子ども」を中心にとらえる教育観の成立
- 第5回： 20世紀の代表的教育思想
- 第6回： 日本の学校制度と教育体系の整備
- 第7回： 教育の社会的基盤
- 第8回： 現代日本の教育課題
- 第9回： 子どもと社会環境・特別支援教育
- 第10回： 「学ぶ力・考える力」 能動的な学習者を育てる
- 第11回： 教育評価の意義と方法
- 第12回： 学校経営と学校評価
- 第13回： 学級経営の基本
- 第14回： 教育行財政の基本 生涯学習時代の「教育と学習」
- 第15回： まとめ

評価

毎回授業時の小テストと筆記試験により評価する。その比率は、小テスト50%：筆記試験50%で、合計60%以上の得点の場合を単位認定する。及第点に満たなかった場合には「再試験」を行う。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】桑原敏明・佐藤三郎 編著『学校教育の基盤 - 教育の本質と社会の中の学校』協同出版

その他は、初回授業時に指示する。

科目名	教育心理学		
担当教員名	綿井 雅康		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-教職課程・司書教諭課程科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	栄養教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状 (福祉)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

教職に関する科目のうち、教育の基礎理論についての理解を深める科目である。

科目の概要

教職志望の初学者を主な対象として、学習の過程、および児童生徒の心身の発達について、教育心理学的な知見を学ぶとともに、学校教育現場における具体的な問題についての理解を深める。障害をもった子どもたちの発達、および特別な支援のあり方についても取り扱う。児童・生徒であった、そして学生である受講生に対して、「教える」、「学ばせる」、「学びを支援する」という「教師の立場」から、教育・指導や学習活動を客観的かつ分析的な視点からとらえようとする態度を育むことを目指す。

学修目標

教育心理学的な考え方や知識に基づいて、学校教育における学習活動の客観的に理解することができる。さらに、よりよい学習活動を展開するための工夫や特別な支援を必要とする子どもたちの学習活動のあり方について、心理学的知見に基づいて具体的に考えることができるようになる。

内容

1. 教育心理学と学校教育
2. 学習の動機づけ(1) 動機づけのメカニズム、内的欲求
3. 学習の動機づけ(2) 内発的動機づけと外発的動機づけ
4. 学習の基礎理論
5. 教授学習における学習理論
6. 協同学習の理論と実践
7. 学級の心理学
8. 学習の個性化、個別的ニーズへの対応
9. 教育評価
10. 発達(1) 発達の一般的特徴、発達を規定する要因
11. 発達(2) 発達段階と発達課題
12. 学習者の特性理解(1) 知的能力の発達と測定
13. 学習者の特性理解(2) パーソナリティの理論と測定
14. 学習者の特性理解(3) 障がいに応じた特別支援教育
15. 学習のまとめと確認

評価

筆記試験：90点，授業内課題10点の計100点で、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

教職ガイダンス等で指示します。

科目名	教育心理学		
担当教員名	綿井 雅康		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-教職課程・司書教諭課程科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	栄養教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状 (福祉)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

教職に関する科目のうち、教育の基礎理論に関する科目である。

科目の概要

児童生徒の心身の発達、学習・教授学習過程の特質などを中心に取り上げる。さらに、学校教育における「生きる力を育む」ための「学び」の本質を理解することをめざす。さらに、受講生自身や級友・学友たちがどのように学び成長し発達してきたのかについて、教育心理学の視点や知見を提示し、より客観的に理解する機会も提供する。

学修目標

児童期から青年期へと移行していく児童・生徒の心理的諸特性がどのように発達するのかをより深く理解し、子ども理解に役立てようとする態度をもつ。さらに、学校における多様な学習活動の過程や意義を理解するために、教育心理学的な知見を適用しつつ客観的科学的に分析する態度を養う。

内容

1. 子ども理解・学習活動の理解と教育心理学
2. 知能の発達と学力
3. 道徳性の発達
4. 社会性の発達
5. 教師と子ども間関係、子ども間の人間関係の発達
6. 諸特性の発達を測定する方法
7. 学習過程の基礎(1) 心理学における学習、条件づけ
8. 学習過程の基礎(2) 学習意欲と統制感・原因帰属
9. 学習過程の基礎(3) 観察学習、学習の諸相
10. 学習過程の基礎(4) 記憶、メタ認知、問題解決としての学習
11. 学習過程の基礎(5) 学習指導に生かす教育評価のあり方
12. 子どもの個人差に応じた学習指導
13. 学校における不適応
14. 特別支援教育の理解
15. 学習のまとめと確認

評価

評価 期末試験：90点，授業内課題10点の計100点で、60点以上を合格とする

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

教職ガイダンス等で指示します。

科目名	教育方法		
担当教員名	星野 敦子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-教職課程・司書教諭課程科目		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状 / 栄養教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状 (福祉)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

本科目は、中等教育の現場において必要とされる教育方法理論の基礎知識の獲得を目的としている。

特に教育課程編成に関わる知識と教育方法理論の関係を的確に捉えることにより、教員採用試験に直結する実践力を養う。

内容

- 1 教育の目的と方法
- 2 教育課程の類型：教科主義と開発主義
- 3 カリキュラムの構成要素
- 4 教育方法の歴史的変遷 (1) 教科主義的カリキュラムと教育方法
- 5 教育方法の歴史的変遷 (2) 経験主義的カリキュラムと教育方法
- 6 教育方法の歴史的変遷 (3) 近代の教育カリキュラムと教育方法
- 7 わが国における教育方法の歴史的変遷
- 8 いろいろな教授法 (1) 学習集団と教授法
- 9 いろいろな教授法 (2) 教材開発と教具の利用
- 10 いろいろな教授法 (2) 新しい教授法
- 10 学習指導の技術
- 11・12 学習指導要領の変遷 (1) 歴史的変遷
- 13 学習指導要領の変遷 (2) 現行指導要領の特徴
- 14 世界のカリキュラム改革
- 15 まとめ

プレゼンテーションにあわせた資料プリントを毎回配布する。プレゼンテーションファイルはホームページで随時公開している。

毎時間課題プリントを実施する。

評価

評価は、以下の2点を総合して行う

- 1 授業ごとの課題提出 (30%)
- 2 最終試験の達成度 (70%)

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

特に定めない

科目名	教育方法		
担当教員名	橋本 克己		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-教職課程・司書教諭課程科目		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状 / 栄養教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状 (福祉)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

1 科目の性格

本科目は、教員免許法に定める「教育課程及び指導法に関する科目」の2単位に対応するものである。(教職必修)

2 科目の概要

本科目では、中等教育に必要な教育方法学の基本(教育課程の編成・学習指導の原理・学習指導の実際)について学ぶとともに、教育メディア活用についての諸問題について学ぶ。

3 学修目標

本科目の学修目標は以下の3点である。 教育課程編成の理論と実際について理解する。 学習指導に必要な原理と実践方法を身につける。 学校教育におけるメディアの活用について理解する。

内容

- 1 教育課程の意義と類型
- 2 教育課程の編成
- 3 学習指導の意義と目標
- 4 教材とその研究
- 5 学習指導の原理
- 6 学習指導過程
- 7 学習集団の組織
- 8 授業と指導技術
- 9 教授メディアとその活用
- 10 コンピュータ利用の学習指導(総論)
- 11 授業設計の実際
- 12 優れた授業実践(映像)の視聴と討議
- 13 授業分析の方法と技術
- 14 新しいスタイル(TTなど)の授業方法
- 15 まとめ

評価

毎回授業冒頭の小テスト・筆記試験により評価する。その比率は50点:50点とする。合計60点以上を合格とする。合格点に満たない場合には「再試験」を行う。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【テキスト】

長谷川栄・佐々木俊介編著 『教育の方法と技術 - 実践的指導力の基礎を培う』 協同出版

天井・橋本編著 『現代実践教職入門』 学事出版

【参考図書】 授業中に、本学蔵書を適宜紹介する。

科目名	道徳教育		
担当教員名	上原 行義		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-教職課程・司書教諭課程科目		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状 (福祉)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、教育職員免許法施行規則に定める、高等学校の免許取得に必要な「教職に関する科目」のうち、「教育課程及び指導法に関する科目」に対応するものである。

高等学校の免許状を取得しようとする者は、必修であるので留意すること。

科目の概要

道徳教育に対する一般的認識は、歴史的な影響もあって学習指導要領に定められた本質や理念とは、大きなずれがある。道徳教育が目指す人間観や教育観について正しく理解して指導に当たることが出来るように、下記の学修目標にかかわる事項について具体的に考察する。また、学生相互の意見交換を大切に、常に自ら判断し行動できる人間を目指して向上しようとする態度を身につける。

学修目標

- ・道徳教育とは何か、その意義や課題について考察し、道徳教育の本質や理念について正しく理解する。
- ・学校における道徳教育と道徳の時間の果たす役割について理解し、「道徳」の授業のあり方について考察する。
- ・「道徳」の授業の進め方について理解し、学習指導案を作成する。

内容

1	1	学習指導要領における道徳教育の位置づけ
2	2	社会規範としての道徳 道徳教育に関する一般的認識のずれ
3	3	現代社会における道徳教育の課題 青少年の問題状況・現代社会の道徳的問題
4	4	道徳の本質と道徳教育の意義 人間の存在構造と道徳教育・道徳の本質・理論的基礎
5	5	学校における道徳教育の基本構造 学校の社会的任務・道徳教育の目標と内容
6	6	学校の全教育活動における総合的展開
7	7	学校における道徳教育の運営と指導 道徳教育の指導計画・道徳の時間の指導
8	8	道徳の時間の指導案と指導の諸方法 学習指導案の作成
9	9	学校における道徳教育の基礎 道徳における行為決定のしくみ・学校における道徳教育
10	10	学校における道徳の授業 どんな資料で何をねらうか
11	11	これからの時代に要求される道徳教育 道徳教育をめぐる動向・道徳教育の新しい発想
12	12	学習指導案の検討と模擬授業の準備
13	13	模擬授業の実践(1)
14	14	模擬授業の実践(2)
15	15	模擬授業の評価とまとめ

評価

レポート課題60%及び平常の授業態度、提出物等40%により評価を行い、60点以上を合格とする。

合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 遠藤昭彦、山口満編 『道徳教育と特別活動』教職教育講座 第4巻 協同出版

文部科学省 『中学校(高等学校)学習指導要領』 政府刊行物

文部科学省 『中学校学習指導要領解説 道徳編』 政府刊行物

【推薦書】 押谷由夫、宮川八岐編 『道徳・特別活動重要用語300の基礎知識』 明治図書 375.35/D

科目名	道徳教育		
担当教員名	綾井 桜子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-教職課程・司書教諭課程科目		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状 (福祉)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

この科目は「教職に関する科目」の一つとして、学校における道徳教育を支える理論と実際について学ぶものです。

講義では、道徳的価値や規範意識の低下など、現代社会の今日的状況を射程に入れながら、学校における道徳教育の位置づけと実際について学びます。

学修目標は次の三つです。 道徳教育をめぐる今日的状況を知る 学校における道徳教育の役割と実際について理解する 講義および発表を通じて自身の道徳教育観を深める。

内容

1. 道徳、道徳教育について
2. 道徳教育と心の教育
3. 学習指導要領にみる道徳教育の位置づけ、役割
4. 他国にみる道徳教育
5. 道徳教育の変遷 - 明治期における道徳教育
6. 道徳教育の変遷 - 「道徳の時間」の特設
7. 道徳教育における今日的な取り組み
8. 道徳教育における今日的な取り組み
9. 道徳的心情の形成をねらいとする指導の実際 - 「基本型」
10. 道徳的判断力の形成をねらいとする指導の実際 モラル・ジレンマ
11. 発達に応じた指導について考える 道徳性の発達理論
12. 発達に応じた指導について考える 道徳性の発達理論
13. 課題発表
14. 課題発表
15. まとめ

評価

試験60%、課題提出20%、課題発表20%とし、60点以上を合格とします。合格点に満たなかった場合は再試験を行います。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】小寺正一・藤永芳純 編『新版 道徳教育を学ぶ人のために』世界思想社

【推薦書】徳永正直・宮島秀光・榊原志保・堤正史・林泰成『道徳教育論 - 対話による対話への教育』

【参考図書】文部科学省『小学校学習指導要領』、文部科学省『小学校学習指導要領解説 道徳編』

文部科学省『中学校学習指導要領』、文部科学省『中学校学習指導要領解説 道徳編』

科目名	特別活動		
担当教員名	上原 行義		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-教職課程・司書教諭課程科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状（福祉）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

本科目は、教育職員免許法施行規則に定める、中学校・高等学校及び養護教諭の免許取得に必要な「教職に関する科目」のうち、「教育課程及び指導法に関する科目」に対応するものである。

中学校・高等学校及び養護教諭の免許状を取得しようとする者は、必修であるので留意すること。

科目の概要

特別活動は、学校教育における各教科以外の学習の中心となるものである。しかし学習指導要領に示された特別活動の本質や理念が一般的には十分に理解されているとは言えない。特別活動の目的や方法について正しい理解のもとに指導できるよう、下記の学修目標にかかわる事項について具体的に考察する。また、学生が自ら小中学校で体験した特別活動に関する思い出や課題意識を相互に意見交換し、教師として児童生徒の自主的な活動を指導できるようにする。

学修目標

- ・学校教育の今日的課題である「生きる力」の育成に資する特別活動の意義や役割について考察し、特別活動の歴史的変遷や領域ごとの特色について理解する。
- ・望ましい集団活動を組織し、児童生徒が自ら話し合い、協力して実践するための指導のあり方について考察する。
- ・学級活動の授業の進め方について理解し、学習指導案を作成する。

内容

1	1. 学校教育の今日的課題と特別活動	社会動向と教育的課題
2	2. 特別活動の教育的課題	特別活動の特質、性格について
3	3. 日本における特別活動の歴史と変遷	近代日本の教科外活動、戦後における特別活動
4	4. 学級活動の意義と指導の実際	学級活動の意義と性格
5	5. 学級活動の内容・方法・評価	学級活動の指導形態と方法
6	6. 学級活動の展開事例と今日的課題	学級活動の指導案
7	7. 学級活動の指導案の作成	
8	8. 児童会活動、生徒会活動	児童会・生徒会活動の特質と目標、内容及び指導上の留意点
9	9. クラブ活動、部活動の歴史的変遷と教育的意義	
10	10. 学校行事の目標・内容・指導計画等望ましい実施と指導上の配慮事項	
11	11. 総合的な学習の時間との連携	
12	12. 学級活動模擬授業の進め方について	指導案の検討、模擬授業の準備
13	13. 模擬授業の実践（1）	
14	14. 模擬授業の実践（2）	
15	15. 模擬授業の評価とまとめ	

評価

レポート課題60%及び平常の授業態度、提出物等40%により評価を行い、60点以上を合格とする。
合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】遠藤昭彦、山口満編 『道德教育と特別活動』教職教育講座 第4巻 協同出版

文部科学省 『中学校（高等学校）学習指導要領』 政府刊行物

文部科学省 『中学校（高等学校）学習指導要領解説 特別活動編』 政府刊行物（ぎょうせい出版）

【推薦書】押谷由夫、宮川八岐編 『道德・特別活動重要用語300の基礎知識』 明治図書 375.35/D

科目名	生徒指導		
担当教員名	江川 玫成		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-教職課程・司書教諭課程科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	栄養教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状 (福祉)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

生徒指導については、高校時代までに、指導を受けるという経験を通して、ある程度は知っているであろう。しかし、それは必ずしも当を得た理解とは限らない。そこで、生徒指導の意義・目的、課題、内容、方法について、きちんと理解を図ることを目的とする。合わせて、進路指導についても同様に理解を深めることをねらう。

この授業を通じて、教師として行うべき生徒指導について、その意味、意義・重要性、指導内容、教育課程との関連性、指導の組織と計画、生徒理解の方法、指導方法、進路指導等について、きちんと理解してほしい。

内容

1. 生徒指導の意義と目的
2. 生徒指導の領域・内容と課題
3. 生徒指導と教育課程との関連
4. 生徒指導の組織と計画
5. 児童・生徒理解の意義と重要性
6. 児童・生徒理解の内容
7. 児童・生徒理解の方法 (観察法)
8. 児童・生徒理解の方法 (面接法)
9. 児童・生徒理解の方法 (検査法)
10. 生徒指導における集団活動の意義と重要性
11. 生徒指導における集団指導の方法
12. 進路指導の目的と内容 (その 1)
13. 進路指導の内容 (その 2)
14. 進路指導の方法
15. まとめ

授業は教科書を使って行うが、必要に応じて別途プリントや資料を配布し、講義形式で行う。そして、質問を発して、拳手の形で答えてもらうという質問応答の方法を取り入れて行う。

また、毎回の授業で、その時間に学ぶべき事項の理解を深めるべく、かつ復習を兼ねて何回か質問を発し、配布された用紙に解答して提出してもらう。なお、これが平常点と出欠チェックの資料となる。

評価

平常点 (15点) レポート (15点) 筆記試験 (70点) 60点以上を合格とする

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】江川? 成編著 『生徒指導の理論と方法 (三訂版)』 学芸図書

【参考図書】江川? 成編集 『校長・教頭のための児童・生徒問題対応百科』 教育開発研究所

上寺久雄編 『生徒指導』 有信堂

推薦書・参考図書については、これ以外にも授業で提示する。

科目名	教育相談		
担当教員名	加藤 陽子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-教職課程・司書教諭課程科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	栄養教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状 (福祉)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

【科目の性格】

教職に関する科目の中の「生徒指導・教育相談及び進路指導等に関する科目」に対応する。

【科目の概要】

教育相談の理論や技法等についての基礎的知識のみならず相談担当者としての資質も含め、事例も交えて具体的・体系的・総合的に学習する。

また、学校現場において、児童生徒から相談を受けた際に身につけておくべき基礎知識を解説し、個々の児童生徒の状況を把握し評価するための知識や方法についても学ぶ。

【学修目標】

教育相談の意義や理論、知識や技法等を中心にその教育実践についても学ぶ。

内容

予定する講義内容は以下の通りである。

1	教育相談の歴史と今日的課題
2	学校教育における「教育相談」の位置づけ・役割
3	相談援助における児童生徒の理解
4	児童期的人格形成と適応
5	思春期・青年期的人格形成と適応
6	教育相談・援助の基本 カウンセリング理論
7	教育相談・援助の基本 カウンセリング技法
8	児童生徒の行動の理解と対応 不登校
9	児童生徒の行動の理解と対応 いじめ
10	児童生徒の行動の理解と対応 発達障害
11	児童生徒の行動の理解と対応 非行
12	教育相談の実際(事例から学ぶ) 校内連携
13	教育相談の実際(事例から学ぶ) 家庭・地域との連携
14	教育相談の実際(事例から学ぶ) 事件事故・災害時の緊急対応
15	まとめ

評価

授業中の提出物30%、試験70%により評価を行い、60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合は、再試験を行う。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】大芦 治「教育相談・学校精神保健の基礎知識 第2版」ナカニシヤ出版 2008

【推薦書】岡田守弘監修 「教師のための学校教育相談学」ナカニシヤ出版 2008

有村久春著「キーワードで学ぶ 特別活動・生徒指導・教育相談」金子書房 2009

【参考図書】授業中に適宜紹介する。

科目名	総合演習		
担当教員名	井口 磯夫、鎌田 恒夫、橋本 ヒロ子、宮城 道子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-教職課程・司書教諭課程科目		
学 年	3	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状 / 栄養教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状 (福祉)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

本科目は、教職課程の教員資格取得のための必修科目である。

人類共通の課題として国際理解、環境問題などがあり、我が国の課題としては福祉・健康や家族関係などがあげられる。これらの中から複数の課題について、受講者の興味関心に応じて具体的なテーマを選択し、複数の教員の専門分野から指導を受けて、現実の社会の状況を適切に理解できるようにする。

演習・実習を通して、文献や資料の検索方法、身近な観察、実験、野外実習に基づく生命科学や自然科学からのアプローチの方法、社会福祉などにおける現場教育の意義、コンピュータを駆使してのデータのまとめ方、口頭や文章による成果の公表の仕方などを身につける。

内容

1	総合演習の意義とねらい、4領域の課題として、共通のテーマを設定する。
2	情報社会と教育 (井口磯夫)
3	情報教育の流れについて、テーマの視点からの調査 (井口磯夫)
4	情報バリアフリー、ユニバーサルデザイン、デジタルデバイスなどについての議論 (井口磯夫)
5	生命科学と環境問題 (鎌田恒夫)
6	生命科学からみた「環境問題」が生体家に与える影響の調査 (鎌田恒夫)
7	食化学と環境問題 (鎌田恒夫)
8	国際理解教育 (橋本ヒロ子)
9	世界の福祉行政について必要な情報の収集 (橋本ヒロ子)
10	世界の福祉行政について異端-ネットを活用して実習する (橋本ヒロ子)
11	地域社会と福祉 (宮城道子)
12	現代社会における福祉の理念を理解するための基礎知識 (宮城道子)
13	社会福祉制度や施設についての見学・実技等の体験授業 (宮城道子)
14	発表会 (受講者全員)
15	まとめ

評価

各担当教員が課する課題 (20%ずつ) について合計80%、授業参加意欲と発表内容 (20%) を総合して60%以上を合格とする。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】各担当教員が授業中に配布する。

科目名	総合演習		
担当教員名	松野 智子、宮城 道子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-教職課程・司書教諭課程科目		
学 年	3	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状 / 栄養教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状 (福祉)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

人類共通の課題として国際理解、環境問題、福祉・健康・家族関係等が挙げられる。これらの中から養護教諭として担保しておかなければならない近年の課題について、これまでの履修科目では触れられなかった事柄の具体的なテーマを選択し、複数の教員の専門分野から指導を受け、児童生徒の健康の保持増進と健全育成を目指すものである。

学修目標は、随時配布される資料によりその内容を理解するとともに、これまでの習得した知識との関連を持たせながら、授業内容の振り返りを活用し、ノートの整理をすることで、より理解を深め、養護教諭としての資質能力を高める。

内容

1	教育関係法令と教育行政
2	子どもの発育・発達の理解
3	子どもの生活行動について
4	子どもの抱える心の問題
5	学校環境衛生
6	子どもの貧困
7	子ども手当と高校無償化
8	児童虐待
9	児童虐待における養護教諭の役割
10	地域社会における関係機関について
11	子どもを取り巻く環境について
12	保健指導の機会とその捉え方
13	喫煙・飲酒防止教育について
14	薬物乱用防止教育について
15	まとめ

評価

筆記試験 6 割、レポート 3 割、授業に対する意欲・関心・態度 1 割 60 点以上を合格とする。

合格点に満たない場合「再試験」を実施する。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

科目「養護概説」における教科書を使用する。その他必要に応じて授業時に指示する。

科目名	養護実習		
担当教員名	松野 智子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-教職課程・司書教諭課程科目		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	養護教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

養護実習開始にあたり、教育職員免許法による養護教諭の免許取得に必要なとなっている「養護に関する科目」、「教職に関する科目」により、これまで学んできた知識やその方法を再度確認することや、心理学領域で学習してきた知識の活用が実習時には大きな効果をもたらすことを認識させるために、ロールプレイングを取り入れた指導場面を設定するなどして養護教諭としての役割と責任を自覚させることを目指すものである。

学修目標は、実習記録簿の扱い方や記入方法等を理解させる。児童生徒を目の前にした対応時に的確な判断と対応に、自分の持っている知識や技能を発揮し適切な対応でなければならないことを認識させる。連携の方法や必要性を再確認させる。

内容

1. 事前指導

(1) 養護実習オリエンテーション

- ・実習の目的
- ・実習における勤務等の心得
- ・実習記録の作成法

(2) 実習中における課題の設定について

(3) 実習校訪問について

(4) ロールプレイングによる模擬演習

2. 事後指導

(1) 養護実習報告会

- ・実習の総括
- ・課題取組内容とその成果の発表

(2) 実習校訪問

(3) 実習記録簿の提出

評価

提出物、報告会などの授業態度等を総合的に評価する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

推薦書：「学校保健実務必携」(学校保健・安全実務研究会 編著 第一法規)

科目名	養護実習		
担当教員名	松野 智子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-教職課程・司書教諭課程科目		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係	養護教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

大学において学習した理論・技術を基礎として、実際の現場に臨んで実地に実習することにより、学校教育全体を理解し、学校保健活動と養護教諭の職務が教育活動の一環として位置付けられていることを認識しながら、養護教諭としての職務の実際にかかわり、具体的な方法や処理の仕方等を身につけることを目指すものである。

学修目標は、実習校の教育目標などから学校の経営方針やその特徴を知る。 児童生徒への対応や判断方法など養護教諭としての執務に関する体験。 児童生徒への指導の体験。 事後措置の方法の体験。 他の教員や保護者等との連携方法の体験。

内容

1. 学校教育活動の理解と学校保健の位置づけとその組織の理解
2. 学校運営及び教職員の職務の理解
3. 教職員間の連携や相互協力の機会、方法についての理解
4. 養護教諭の役割と保健室経営について実務を通じた理解
5. 児童生徒の心身の健康実態及び健康課題の把握
6. 児童生徒の心身の健康課題への対応とその措置
7. 地域等の関係機関との連携について
8. 学校保健計画や学校安全計画の理解とその活動
9. 集団による保健指導等の実際
10. 教育者としての倫理観の体得について

評価

実習校から提出される勤務記録と実習評価票の結果及び実習記録簿を総合して評価する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

推薦書：(学校保健・安全実務研究会編著 学校保健実務必携 第一法規)

「養護に関する科目」の中で養護教諭の職務等に関わる内容を整理したノートを持参すること

科目名	教育方法		
担当教員名	井口 磯夫		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-教職課程・司書教諭課程科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状 (福祉)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

この科目は、教職課程の選択科目として開講されている。

教育方法は広義には、教育内容、学習形態、教授組織、教育メディア、学級経営、生活指導、学習環境、授業評価など、学校教育に関するあらゆる技術的な問題を扱う分野である。

本講義では、授業設計を中心に学ぶ。授業設計の中に取り入れるさまざまな情報機器の活用 (特にコンピュータの利用) の方法について学ぶ。

内容

1	教授・学習過程のシステム分析 (ブラックボックスと制御システム)
2	教授・学習過程とコミュニケーション過程 (コンフリクトをもつフィードバックシステム)
3	カリキュラム開発と教育工学
4	授業目標の設定 (教育目標の分類と行動目標、評価の観点、ルーブリック)
5	学習集団の編成 (学級集団、集団の機能、集団学習形態の特質、集団の編成)
6	授業の個別化の理論と実際 (適性処遇交互作用、コンピュータによる個別化)
7	教材とその開発研究 (教材作成の意義、教材の評価の観点、教材作成の研究的意義)
8	教授メディアの考え方
9	教授メディアを活用した学習指導案と授業実施
10	ICT (情報機器) の授業への利用と実際
11	プロジェクタ教材を活用した授業 (プレゼンテーション技法)
12	コンピュータ実習 (コースウェア作成技法 1)
13	コンピュータ実習 (コースウェア作成技法 2)
14	授業改善のための評価基準
15	まとめ

評価

最終レポート (50%)、課題等の提出物 (30%) と授業中の課題への取り組み (10%)、授業への参加度 (10%) による総合的な評価とし、60%以上を合格とする。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】教科書は使用せず。毎時間資料を配布する。授業用フォルダ内に授業用ワークシートを置く。

【参考書】教育方法 の教科書、松平信久・横須賀薫編『教育の方法・技術』(教育出版)。

科目名	教職演習		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-教職課程・司書教諭課程科目		
学 年		ク ラ ス	
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	養護教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状（福祉）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

本科目は人間生活学部人間福祉学科の3・4年生を対象とした教職課程・司書教諭課程科目の一つに位置づけられた前期に開講される2単位の科目である。教職課程の各科目、特に教職入門・教職演習 との関連性が在り、これらの科目の学修を踏まえる必要がある。なお、この科目は、社会情報学科・コミュニケーション学科（教職課程）と同時開講である。

科目の概要

これからの学校教育や教職員に求められる資質や能力などに関して、具体的な課題を取り上げ、教職員にふさわしい資質や能力及び実践的な指導力を演習などを通して身に付ける。

学修目標

今日の生徒の興味・関心、能力・適性、進路希望等は極めて多様化している。また、児童生徒を取り巻く教育環境は国際化、情報化、高齢化、少子化など著しい進展や生涯学習社会への移行など急速に変化している。このことを踏まえ、これからの学校教育や教職員としてのあり方などについて具体的な課題を取り上げ考察し、教職員に求められる基本的な資質や能力及び実践的な指導力を育成する。

内容

1	「教職演習」のガイダンス
2	学校を取り巻く環境の変化
3	学校組織と教員の役割と責任
4	学習指導要領と特色ある教育課程の編成
5	新しい学習指導要領とその改訂の特色
6	「生きる力」の育成と総合的な学習の時間
7	授業力の向上と指導内容・方法の改善－実践指導演習－
8	健全い育成と生徒指導の在り方
9	生徒指導上の課題とその対応－実践指導演習（1）－
10	生徒指導上の課題とその対応－実践指導演習（2）－
11	キャリア教育と進路指導－実践指導演習－
12	学級（ホームルーム）経営の在り方－実践指導演習－
13	学校における接遇－実践指導演習－
14	教職員に求められる資質や能力
15	「教職演習」のまとめ

評価

小テストを含めた試験（60％）・演習発表やレポート（30％）・作業プリントなどの提出物（10％）で評価を行い、60点以上を合格とする。合格点に満たない場合は再試験を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

テキスト

- ・現代実践教職入門（学事出版）天井 勝海編著・2200円
- ・授業の際に配布されるプリント

推薦書

- ・中学校学習指導要領（文部科学省）・244円
- ・高等学校学習指導要領（文部科学省）・588円

科目名	教職演習		
担当教員名	齋藤 千景		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-教職課程・司書教諭課程科目		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状 (福祉)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

教職職員免許法施行規則による養護教諭の免許に必要な「養護に関する科目」に位置づけられている「学校保健」の科目を中心に、これまで学んできた知識を基礎に据え、不足している知識を補いつつ、具体的な実施方法について演習を取り入れながら、養護教諭として求められる能力の向上を目指すものである。学修目標は これまで学んだ知識と技術を確認する。具体的な諸活動を立案し実践することができる。

内容

1	学校保健安全法と学校保健関連法規について
2	養護教諭の職務について
3	学校保健計画の作成について
4	保健学習について
5	保健指導の進め方について
6	保健指導の実際と評価について
7	健康観察の実際と事後措置について
8	健康診断の種類と測定方法について
9	健康診断の実施の工夫と事後措置について
10	子どもに多くみられる病気の理解と管理方法について
11	感染症の理解と対応について
12	学校で予防すべき感染症とアレルギー疾患の理解と対応について
13	学校環境衛生の基準と方法について
14	学校における保健組織活動について
15	まとめ

評価

筆記試験6割、レポート3割、通常の授業態度1割により評価し、60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

テキスト：養護教諭のための学校保健<第10版> 出井美智子他 少年写真新聞社

推薦書：授業中に適宜示す

科目名	教職演習		
担当教員名	松野 智子、増田 吉史		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-教職課程・司書教諭課程科目		
学 年	3	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状 (福祉)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

教育職員免許法施行規則による養護教諭の免許取得に必要な「養護に関する科目」に位置づけられている「養護概説」の科目を中心に、これまで学んできた知識を基盤に据え、不足している知識を補いつつ、具体的な実施方法について演習を取り入れながら、養護教諭としての求められる能力の向上を目指すものである。

学修目標は、 これまでに学んだ知識と技術の確認、 いかなる条件下においてもこれまで習得した教職関係及び心理学関係の知識を活用し、養護教諭としての的確な判断のによる対応能力の育成。

内容

1	学校教育と学校保健
2	養護教諭の職務内容
3	学校保健関係者の役割
4	学校保健関係者との連携方法
5	児童生徒の疾病予防と管理
6	学校における感染症の理解
7	学校における感染症への対応の実際
8	歯科保健の理解
9	子どもに多い眼の疾患の理解
10	子どもに多い鼻・耳の疾患の理解
11	子どもに多い咽頭・喉頭の疾患の理解
12	児童生徒の心のケアの理解と実際
13	学校管理下における事故災害に関する理解
14	学校管理下における事故災害時の事務処理の実際
15	まとめ

評価

筆記試験 6 割、レポート 3 割、通常の授業態度 1 割 60 点以上合格とする。

合格点に満たない場合は「再試験」を実施する。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

- ・采女智津江他 「新養護概説」少年写真新聞社
- ・学校保健・安全実務研究会編著 「学校保健実務必携」 第一法規
- ・その他必要に応じて授業時に指示する

科目名	栄養教諭実践論		
担当教員名	名倉 秀子、清野 芳子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-教職課程・司書教諭課程科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	栄養教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

本科目は、栄養教諭一種免許状を取得するために必要となる科目で、小・中学校において栄養教諭に求められる基礎的な内容を学ぶ。

児童・生徒の食生活の乱れが近年深刻化されている。学校において食に関する指導を行い、児童・生徒が望ましい食習慣を身につけることが栄養教諭の使命といえる。

学修目標は、栄養教諭の役割及び職務内容に関する事項や幼児、児童・生徒の栄養に係る課題に関する事項について理解できる。

内容

1	栄養教諭とは
2	児童・生徒の栄養の指導及び管理の意義
3	児童・生徒の栄養指導及び管理の現状と課題
4	児童・生徒の食事に関する実態把握及び分析等の必要事項
5	栄養教諭の職務内容
6	栄養教諭の使命、役割
7	学校給食の意義
8	学校給食の役割
9	児童・生徒の栄養の指導及び管理に係る社会事情
10	児童・生徒の栄養の指導及び管理に係る法令ならびに諸制度
11	国民の栄養をめぐる諸事情
12	児童・生徒の栄養に係る諸課題
13	食生活に関する歴史
14	食事及び食物の文化的事柄
15	まとめ

評価

レポート30点及びペーパーテスト70点により評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】笠原賀子編著 『栄養教諭のための学校栄養教育論』 医歯薬出版

小学校学習指導要領 文部科学省

中学校学習指導要領 文部科学省

【推薦書】川戸喜美枝編著 『栄養教諭は何をすべきか - 豊かな心と丈夫な体を育てる食の教育 - 』(株)ぎょうせい

科目名	栄養教諭実践論		
担当教員名	名倉 秀子、清野 芳子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-教職課程・司書教諭課程科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	栄養教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

本科目は、栄養教諭一種免許状を取得するために必要な科目で、栄養教諭実践論 の基礎から応用へ展開し、具体的な指導の方法等を学ぶ。

栄養教諭の職務内容は「学校給食管理」と「食に関する指導」であり、後者についてその実際を学び、さらに指導案と教材・資料等を作成する。

学修目標は、食に関する指導の方法を理解し、指導案、教材・資料を作成することができる。

内容

1	「食に関する指導」の位置づけを理解する
2	学校全体で取り組む食に関する指導にかかる全体的な指導計画の作成
3	給食に時間における食に関する指導
4	家庭科、技術・家庭科における食に関する指導
5	体育科、保健体育科における食に関する指導
6	道徳、特別活動における食に関する指導
7	生活科、総合的な学習の時間における食に関する指導
8	食物アレルギー、肥満傾向などの個別指導のあり方
9	演習1 食生活学習教材・食に関する指導参考資料を活用した食に関する指導
10	演習2 食に関する指導の指導案作り
11	演習3 作成した指導案の発表，相互批評など
12	演習4 模擬授業、指導効果の評価
13	学校、家庭が連携した食に関する指導
14	学校、地域（保健所、保健センター、食生活改善推進委員会）が連携した食に関する指導
15	まとめ

評価

レポートや課題発表等50点及びペーパーテスト50点により評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】笠原賀子編著 『栄養教諭のための学校栄養教育論』 医歯薬出版

小学校学習指導要領 文部科学省

中学校学習指導要領 文部科学省

【推薦書】川戸喜美枝編著 『栄養教諭は何をすべきか - 豊かな心と丈夫な体を育てる食の教育 - 』（株）ぎょうせい

科目名	道徳教育・特別活動論		
担当教員名	上原 行義		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-教職課程・司書教諭課程科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	栄養教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、教育職員免許法施行規則に定める、栄養教諭の免許取得に必要な「教職に関する科目」のうち、「教育課程に関する科目」に対応するものである。

科目の概要

道徳教育・特別活動は、学校教育における各教科以外の学習の中心となるものである。しかし学習指導要領に示された道徳教育・特別活動の本質や理念が一般的には十分に理解されているとは言えない。道徳教育・特別活動の目的や方法について正しい理解のもとに指導できるよう、下記の学修目標にかかわる事項について具体的に考察する。また、学生相互の意見交換を大切に、常に自ら判断し行動できる人間を目指して向上しようとする態度を身につける。

学修目標

- ・道徳教育・特別活動の意義や課題について考察し、その本質や理念について正しく理解する。
- ・学校における道徳教育と道徳の時間の果たす役割について理解し、「道徳」の授業のあり方について考察する。
- ・望ましい集団活動を組織し、児童生徒が自ら話し合い、協力して実践する特別活動の指導のあり方について考察する。

内容

1	1. 学習指導要領における道徳教育・特別活動の位置づけ
2	2. 道徳の本質と道徳教育の意義 人間の存在構造と道徳教育の必要性
3	3. 学校における道徳教育の基本構造、道徳教育の目標と内容 学校の社会的任務
4	4. 学校教育における道徳教育の運営と指導 道徳教育の指導計画
5	5. 道徳の時間の指導 道徳学習指導案の作成
6	6. 学校教育の今日的課題と特別活動 社会動向と学校の教育的課題
7	7. 特別活動の教育的課題 特別活動の性格、個性の育成、社会性の育成、問題解決力の伸張
8	8. 学級活動の意義と指導の実際 意義と性格、内容・方法・評価、展開事例
9	9. 学級活動の展開事例と今日的課題 学級活動の指導案
10	10. 学級活動の指導案
11	11. 児童会・生徒会活動、クラブ活動・部活動、学校行事
12	12. 学級活動の進め方 司会グループと計画委員会
13	13. 模擬授業の実践(1)
14	14. 模擬授業の実践(2)
15	15. 模擬授業の評価とまとめ

評価

レポート課題60%及び平常の授業態度、提出物等40%により評価を行い、60点以上を合格とする。

合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】遠藤昭彦、山口満編 『道德教育と特別活動』教職教育講座 第4巻 協同出版

文部科学省 『中学校学習指導要領解説 道德編』 政府刊行物（ぎょうせい出版）

文部科学省 『中学校学習指導要領解説 特別活動編』 政府刊行物（ぎょうせい出版）

【推薦書】押谷由夫、宮川八岐編 『道德・特別活動重要用語300の基礎知識』 明治図書 375.35/D

科目名	栄養教諭実習		
担当教員名	清野 芳子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-教職課程・司書教諭課程科目		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	栄養教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

栄養教諭一種免許状を取得するために必要となる科目で、栄養教育実習に係わる事前・事後の指導を中心に行なう科目である。

学校における実習が始まる前に、栄養教諭の職務内容について、知識・技術を再確認する。実習後は、自らの実習体験をもとに栄養教諭の役割について理解を深める。

学修目標は教育実習中に必要とされる指導案の作成、資料・教材の作成を計画的に取り組むことができる。また、教育実習後では、学んだ実習について発表、協議し、よりよい「食に関する指導」の提案、計画ができる。

内容

[栄養教諭実習前] 実習準備に結び付く内容を検討・確認する。

栄養教諭実習の意識や目的、心構え、実習の評価の方法、実習ノートや指導案の書き方、実習中の大学との連絡方法などを検討し、確認する。

[栄養教諭実習後] 実習体験の報告をもとに、問題点の整理、今後の課題を明確化し、栄養教諭の職務活動の展開を考える。

評価

事前・事後指導におけるレポート、指導案の取り組みにより評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

実習ノート・プリント配布

科目名	栄養教諭実習		
担当教員名	清野 芳子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-教職課程・司書教諭課程科目		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	栄養教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

栄養教諭一種免許状を取得するために必要となる科目で、栄養教諭実習 で学んだ内容を教育現場で実際に体験し、教諭としての知識、技術を確実に身につける。

栄養に関する科目、栄養教諭実習 で習得したことをふまえて、栄養教諭実習 では、実際に学校での職務について参観し、実習を実施する。

大学で学んだ理論的、技術的な学習成果を実践し検証することができる。

内容

1. 指導教諭等から学校経営、校務分掌、服務等の説明をうける。
2. 児童・生徒への個別的な相談、指導の実習 指導・相談の場の参観ならびに補助をおこなう。
3. 児童・生徒への教科・特別活動等における指導の実習 学級活動及び給食の時間における指導の参観ならびに補助。教科等における教科担任等と連携した指導の参観ならびに補助。給食放送指導、配膳指導、後片付け指導の参観ならびに補助。児童生徒集会、委員会活動、クラブ活動における指導の参観ならびに補助。指導計画案、指導案の立案作成、教材研究等をおこなう。
4. 食に関する指導の連携・調整の実習 校内における連携・調整(学級担任、研究授業の企画立案、構内研修等)の参観ならびに補助。家庭・地域との連携・調整の参観ならびに補助等をおこなう。

評価

実習先の評価及び実習記録ノート・巡回担当者の評価をあわせ、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

実習ノート

科目名	福祉教科教育法		
担当教員名	片居木 英人		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-教職課程・司書教諭課程科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（福祉）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

この科目は、高等学校の教科「福祉」を担当する教員として必要な基礎的知識・技能の習得及び力量形成をねらいとする。教育法 では福祉科のねらいと特質、単元構成、教材研究などを中心に基礎的な項目を取り上げて学習する。

具体的には次の事がらを学ぶ。 高等学校福祉科の基本的理念、指導内容・指導方法等についての基本的理解 福祉観の捉え直し（意識化と相互理解・相互啓発） 学習指導の各種手法についての体験的・実践的理解 上記を通しての教育観の捉え直し

学修目標は、上記内容の達成である。授業では、講義、演習、発表、体験的实践等の方法をを取り入れる。少人数ゆえにこそ、各学生の学びへの主体的・積極的な問題意識と参加が求められる。

内容

15週の主たる授業内容は以下の通り。

1. 福祉教育の意義と福祉
2. 福祉科の目標
3. 福祉科の内容構成
4. 7科目の教材研究 「社会福祉基礎」
5. 7教科の教材研究 「社会福祉制度」
6. 7教科の教材研究 「社会福祉援助技術」
7. 7科目の教材研究 「基礎介護」
8. 7教科の教材研究 「社会福祉実習」
9. 7教科の教材研究 「社会福祉演習」
10. 7教科の教材研究 「福祉情報処理」
11. 教材研究のまとめ
12. 福祉科の指導上の留意点
13. 福祉科における実習・演習の意義と指導法
14. 福祉科における実習・演習の意義と指導法
15. 福祉教育とボランティア学習

評価

レポート20%、発表60%、課題提出20%とし、総合的に評価する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

- 【教科書】・文部科学省『高等学校学習指導要領』東山書房
 ・保住芳美編著『新学習指導要領の展開（福祉科編）』明治図書出版

【推薦書】 推薦書及び参考図書は、必要に応じて、授業で随時紹介する。

科目名	福祉教科教育法		
担当教員名	片居木 英人		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-教職課程・司書教諭課程科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（福祉）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

この科目は、「福祉教科教育法」に引き続き、高等学校の教科「福祉」を担当する教員として必要な基礎的知識・技能の修得及び力量形成をねらいとする。福祉教科教育法の履修済が前提となる。福祉教科教育法では、学習指導、授業研究、実習の指導などを体験的・実践的に学ぶことにする。

授業では、引き続き、講義、演習、発表、体験的实践等の方法を取り入れる。具体的には次の事がらである。高等学校福祉科の基本的理念、指導内容・指導方法等についての基本的理解 福祉観の捉え直し（意識化と相互理解・相互啓発）学習指導の各種手法についての体験的・実践的理解 上記を通しての教育観の捉え直し

学修目標は、上記内容の到達とする。少人数ゆえにこそ、各学生の学びへの主体的・積極的な問題意識と参加が求められる。

内容

1. 授業のねらいと概要（学習指導案作成及び各科目指導法について）
2. 福祉科の指導法の概要
3. 「社会福祉基礎」の目標とその指導法
4. 「介護福祉基礎」の目標とその指導法
5. 「コミュニケーション技術」の目標とその指導法
6. 「生活支援技術」の目標とその指導法
7. 「介護過程」の目標とその指導法
8. 「介護総合演習」の目標とその指導法
9. 「介護実習」の目標とその指導法
10. 「こころとからだの理解」の目標とその指導法
11. 「福祉情報活用」の目標とその指導法
12. 福祉科学習指導案の作成と改善の検討
13. 模擬授業1（授業評価及び指導案の検討を含む）
14. 模擬授業2（授業評価及び指導案の検討を含む）
15. 模擬授業3（授業評価及び指導案の検討を含む）

評価

次の観点から、ミニレポートと最終的に提出する学習指導案を含むレポートにより評価する。

- ・福祉科各科目の目標とその指導法を理解できたか。
- ・福祉科学習指導案を作成する力を身につけたか。
- ・模擬授業演習を通じて、学習指導案を検討し、授業を改善することができたか。

ミニレポート（出席状況を含む）20点、模擬授業実践60点、最終レポート20点により評価する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】『文部科学省検定済教科書 社会福祉基礎』実教出版

【推薦書】推薦書及び参考図書については、必要に応じて、授業で随時紹介する。

科目名	教育実習		
担当教員名	片居木 英人		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-教職課程・司書教諭課程科目		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状(福祉)		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

この科目は、参観実習及び教壇実習の成果を最大限に引き出し、教職をめざす者としての責任を自覚させ、実際の授業運営能力を向上させることをねらいとする。

授業では、教科教育法や教科関連科目によって習得してきた知識・理論・方法論を踏まえた上で、実際に教育実習を行うにあたっての具体的な事前・中間・事後の指導を行う。

学修目標は、上記内容の達成である。教育実習に直接関わる科目であり、情熱と問題意識をもって積極的に取り組んでいくことが肝要である。

内容

15週の主たる内容は、次の通り。

1. 事前指導

- ・教育実習オリエンテーション(1週)
- ・実習時おける勤務・サービスの心得(2週)
- ・実習記録の作成法(3週・4週)
- ・配当科目についての最終的な指導案の作成(5週)
- ・事前模擬授業実践(6週・7週・8週)
- ・実習校事前訪問指導(9週)

2. 中間指導

- ・前期実習を振り返っての反省会(10週)
- ・実習日誌の中間提出(確認)(11週)
- ・後期実習に向けての指導(12週)

3. 事後指導

- ・実習校事後訪問指導(13週)
- ・教育実習報告書の作成指導(14週)
- ・教育自習報告会の実施(15週)

評価

授業への参加、教材研究や模擬授業課題の状況、教職をめざす者としての心構えの理解や授業運営能力などを総合的に行う。事前模擬授業実施20%、教育実習日誌内容60%、教育実習報告書作成及び報告会参加20%により評価する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】教育実習高校で各自使用した教科書

【推薦書】推薦書及び参考図書は、必要に応じて、授業時に適宜指示する。

科目名	教育実習		
担当教員名	片居木 英人		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-教職課程・司書教諭課程科目		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（福祉）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

教育実習 は、教職科目、教科関連科目、教育実習 で習得してきた内容を踏まえて、実際に学校 現場で授業を担当し、教職をめざす者としての総合的力量を身につけることをねらいとする。

趣旨（概要）としては、これまで習得してきた教科・授業方法等に関する知識を主体的・実践的なレベルに転換し、学校現場での実際の勤務経験を通して、自身の教職についての適性や能力を自己覚知することにある。

学修目標は、上記の内容・課題への到達である。なお本科目は、教員免許法に定める「教育実習」のうち、高等学校一種「福祉」（3週間以上の実習期間の者を対象とする）の増加単位（選択）の2単位分に対応する。

内容

教育実習校における3週間以上の授業担当による教育実習を行う。

評価

実習校からの評価資料60%、研究授業実践状況20%、「実習日誌」等の資料20%とし、評価を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】教育実習校で各自使用する教科書

【推薦書】推薦書及び参考図書については、必要に応じて、適宜指示する。

科目名	教育実習		
担当教員名	片居木 英人		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-教職課程・司書教諭課程科目		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（福祉）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

教育実習 は、実際に学校現場で授業を担当する。これまで習得してきた教科・授業方法等に関する知識を主体的・実践的なレベルに転換し、教職をめざす者としての総合的力量を身につけることをねらいとする。

趣旨（概要）は、教職科目、教科関連科目、教育実習 で学修してきた内容を踏まえて、学校現場での実際の勤務経験を通して、自身の教職についての適性や能力を自己覚知することにある。

学修目標は、上記の内容。課題への到達にある。なお本科目は、教員免許法に定める「教育実習」のうち、高等学校一種「福祉」で必修とされる2単位分に対応する。

内容

実習校における2週間の授業担当による教育実習を行う。

評価

実習校からの評価資料60%、研究授業実践状況20%、「実習日誌」等の資料20%とし、評価する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】教育実習校で各自使用する教科書

【推薦書】推薦書及び参考図書については、必要に応じて、適宜指示する。

科目名	学校保健		
担当教員名	齋藤 千景		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-教職課程・司書教諭課程科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

教職職員免許法施行規則による養護教諭の免許に必要な「養護に関する科目」に位置づけられる。学校教育における学校保健の意義、学校保健の仕組みや基礎的事項について理解することを目指す。学校保健において大きな役割を持つ養護教諭の活動について重点をおいて講義を行う。学修目標として 学校教育における学校保健の意義や機能について理解する。 学校保健における基礎的事項について理解する。 学校保健における養護教諭の役割を理解する。

内容

1	学校保健の意義と関連法規について
2	子どもに多くみられる病気の理解について
3	学校における疾病管理の実際について
4	慢性疾患のある児童生徒の疾病管理について
5	学校において予防すべき感染症について
6	学校における感染症の対応について
7	学校環境衛生の目的について
8	学校環境衛生の基準について
9	心身の健康課題への対応について
10	保健室経営について
11	保健室経営計画について
12	学校における保健組織活動の必要性について
13	学校安全計画と安全管理について
14	学校給食について
15	まとめ

評価

筆記試験(小テストを含む)9割、通常の授業態度1割により評価し、60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

テキスト：養護教諭のための学校保健<第10版> 出井美智子他 少年写真新聞社

推薦書：授業中に適宜示す

科目名	解剖生理学		
担当教員名	池川 繁樹		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-教職課程・司書教諭課程科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

解剖生理学では人体のしくみについて構造と機能という観点から理解することを目的とする。解剖学では人体の構造、生理学では機能を学ぶというおおまかな分類がある。しかし、両者は切り離して理解することはできない。本講義ではヒトが生きるための体の構造と機能そしてその関連に重点をおいて学ぶ。

内容

- 1.人体の構造(組織、器官など)
- 2.骨格系の構造と機能
- 3.筋系の構造と機能
- 4.筋系の構造と機能
- 5.循環系の構造と機能
- 6.循環系の構造と機能
- 7.消化系の構造と機能
- 8.消化系の構造と機能
- 9.呼吸器系の構造と機能
- 10.呼吸器系の構造と機能
- 11.神経系の構造と機能
- 12.神経系の構造と機能
- 13.環境と人体の構造と機能
- 14.環境と人体の構造と機能
- 15.まとめ

評価

まとめのレポート50点、各回ごとの小レポート20点、通常の授業態度30点により評価を行い、60点以上を合格とする。三分の二以上出席することで評価を受けることができる。合格点に満たなかった場合は再レポートを行う。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業時に指示

科目名	解剖生理学特論		
担当教員名	森 三樹雄		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-教職課程・司書教諭課程科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

近年、医学や医療に関する急速な進歩に伴い、医療を必要とする職種において、広範囲な医療知識と高度な専門技術が求められている。ここでは、解剖生理学という、人体の解剖学とその生理学的機能を学ぶことにより、医学の基本知識を身につけることができる。この学問を基礎にして、種々の病気を理解することができるようになり、社会人となった時に役立つ学問である。

内容

1	疾患による細胞、組織の変化 疾患の診断
2	疾患の治療 臨床検査
3	糖代謝とその異常
4	脂質代謝とその異常 蛋白質、核酸の代謝とその異常
5	栄養障害 摂食障害
6	消化管および肝、胆道, 膵臓疾患
7	循環障害と循環器疾患 脳血管障害と神経疾患
8	生活習慣病
9	腎・尿路疾患
10	内分泌疾患
11	骨代謝と筋・骨格疾患 呼吸器疾患
12	血液疾患
13	免疫・アレルギー疾患 小児の疾患
14	まとめ1
15	まとめ2

評価

ペーパーテストにより評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

- 【教科書】伊藤節子 編 『臨床病態学』 化学同人 2009
- 【推薦書】高野 康夫編 『解剖生理学』 化学同人 2004
- 【推薦書】森 三樹雄編 『やさしい臨床検査』 南山堂 2008